

骨学・筋学

科目責任者 徳田信子

学年・学期 1学年・3学期

I. 前文

人体には約200の骨と600を超える骨格筋がある。骨学 osteology では、主要な骨およびそれらの間の連結様式について学ぶ。筋学 myology では、骨学の知識に基づいて、主要な骨格筋の機能（関節運動）を中心に学ぶ。骨学・筋学で扱う骨と筋は、互いに密接に関連しながら運動器系 locomotor system と呼ばれる器官系を構成し、次年度以降、臨床科目へとつながっていく。また骨学・筋学の確実な習得は、次年度に開始する解剖学実習を十分に学ぶための大前提である。骨学・筋学は、ディプロマ・ポリシー「I. 医学知識 1）人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。」を目指す。

II. 担当教員

教授	徳田信子	解剖学（マクロ）
准教授	上田祐司	解剖学（マクロ）
助教	沢登祥史	解剖学（マクロ）
助教	北沢祐介	解剖学（マクロ）
非常勤講師	高橋秀雄	

III. 一般学習目標

全身の主要な骨と骨格筋について、運動器 locomotor としての基礎知識を習得する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 全身の体部・部位の名称を確実に記憶する。
- 2) 面・方向・向きおよび関節運動に関する用語を正確に使えるようになる。
- 3) 全身骨格を部分骨格に分けて、各骨格にどのような骨が含まれるかを言える。
- 4) 主要な骨格の連結（関節、軟骨結合、縫合）について説明できる。
- 5) 神経系の構成と各構成要素の機能の概要を説明できる。
- 6) 全身の骨格筋を筋群に分けて、各筋群に含まれる主要な筋の機能を説明できる。
- 7) 全身の体腔の壁にあたる体壁がどのような骨や筋で形成されているのかを理解する。
- 8) 全身の関節運動が統合して、歩行や走行が可能になることを理解する。

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者
1	11	2	月	5	骨学・筋学に関する用語	徳田信子
2		2	月	6	骨学講義 上肢	徳田信子
3		11	水	6	骨学実習 上肢 (1)	全員
4		11	水	7	骨学実習 上肢 (2)	全員
5		16	月	5	骨学講義 下肢	徳田信子

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
6	11	16	月	6	骨学講義 体幹	徳 田 信 子
7		20	金	4	骨学実習 下肢 (1)	全 員
8		20	金	5	骨学実習 下肢 (2)	全 員
9		27	金	4	骨学実習 体幹 (1)	全 員
10		27	金	5	骨学実習 体幹 (2)	全 員
11		30	月	4	骨学実習 体幹 (3)	全 員
12		30	月	5	骨学実習 体幹 (4)	全 員
13	12	4	金	4	筋学講義 (1)	徳 田 信 子
14		4	金	5	筋学講義 (2)	徳 田 信 子
15	1	4	月	4	筋学講義 (3)	徳 田 信 子
16		4	月	5	筋学講義 (4)	徳 田 信 子
17		8	金	4	骨学講義 頭蓋 (1)	徳 田 信 子
18		8	金	5	骨学講義 頭蓋 (2)	徳 田 信 子
19		15	金	4	骨学実習 頭蓋 (1)	全 員
20		15	金	5	骨学実習 頭蓋 (2)	全 員
21		22	金	4	骨学実習 頭蓋 (3)	全 員
22		22	金	5	骨学実習 頭蓋 (4)	全 員
23		25	月	4	骨学実習 復習 (1)	全 員
24		25	月	5	骨学実習 復習 (2)	全 員

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

期末試験およびスケッチなどの提出物で総合的に評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

様々な書籍が出版されています。

書店などで実際に手に取り、ご自分に合ったものを選択してください。

下記に例示します。

- 1) 教科書：グレイ解剖学，エルゼビア
- 2) 教科書：プロメテウス解剖学 解剖学総論／運動器系，医学書院
- 3) 図譜：プロメテウス解剖学 コア アトラス，医学書院
- 4) 図譜：ネッター解剖学アトラス，南江堂

VIII. 質問への対応方法

問い合わせ先：解剖学マクロ講座図書集会室（133室）

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・提出されたレポートの講評や添削を行います。

XI. 求められる事前学習，事後学習

- ・事後学習として，各授業で配布されたレジュメをもとに要点を説明できるようにしておくこと。（15分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）